

文化・人づくり分科会の議論の整理表

重点の柱	現状・課題	当面の重点的な取り組み	委員の具体的な意見
市民の表現活動を広げる場づくり	<ul style="list-style-type: none"> 北海道なり札幌がパワフルに発展していくには、世界のいろいろな人や人と直接触れあうことが大事。観光面のホスピタリティを高めることにもつながる。 国内外の芸術家を札幌に招き直接触れあうことが、異文化交流や札幌のシティーセールスにつながり地域にも活気が生まれる 質の高い芸術の振興と小さな芸術・表現活動をつなげていくことが大事 	国際的なアーティストと市民との交流を深めるプログラムを展開	<ul style="list-style-type: none"> アーティスト・イン・レジデンス事業を各ジャンルさまざまな機会で開催する（既成の事業・助成の活用も検討）[飯塚・中島] 札幌芸術の森、キタラ（PMF）、札幌コンベンションセンター等を通じた学術、芸術家との交流促進、若手の育成と市民の鑑賞機会の増加[高田] 国際的な教育音楽祭であるPMFをはじめ、札幌を訪れる各ジャンルのアーティストと市民、青少年が直接交流する機会を設ける[飯塚]
	<ul style="list-style-type: none"> 札幌には歴史的建造物が少ないので、ソフト的な観光スポットをどんどんつくっていくことが重要【経済・雇用分科会共通】 芸術・文化が集客や世界への発信につながるようなことを考えるべき【経済・雇用分科会共通】 札幌の中心部で、健康・文化・スポーツといったものを融合したイベントで札幌の魅力をアピールすべき【経済・雇用/環境・都市機能分科会共通】 フィルムコミッションは札幌のPRとともに、地域の人たちが自分たちの地域の価値を再発見することにつながるということが最大の効果と言える【経済・雇用/共生・地域づくり分科会共通】 	都心の公共空間や施設を活用し札幌の文化をアピールする取り組みを展開	<ul style="list-style-type: none"> 大通公園を民族の交流などの場（大道芸人の登龍門）として活用[高田] 文化発信のための大きなスペース、ステージとして大通公園を利用できないか[中島] 大通公園を市民が広く使える場として規制緩和を進めてほしい[高田・中島] 札幌の文化や文化遺産をフィルムコミッションに積極的に活用しシティーセールスにつなげる[中島]
	<ul style="list-style-type: none"> 小さな表現の場を広げていくことが、文化の成熟につながる 子どもたちや市民が芸術・文化、スポーツ活動に気軽に参加できるしくみが少ない NPOなどの市民団体が健全かつ継続的に運営されるためには、適切な受益者負担が不可欠【共生・地域づくり分科会共通】 	市民の表現活動・文化活動を支援する仕組みづくりを推進	<ul style="list-style-type: none"> 都心の廃校を活用してNPOや文化活動の拠点を整備する（モデル事業）[臼井・杉森・中島] NPOによる活動の場づくりへの支援や助成システムが必要[杉森・中島] 長期的課題として、公共的文化活動を担う民間施設の運営・営業について、「興行場法」「建築基準法」における位置づけを研究・検討する[飯塚] NPOなどの非営利団体が公共的文化活動を行う場合の公共施設、公共サービスの「有料」規制見直しの調査・研究を進める[飯塚] NPOがファンドレーシング（資金調達）できるようなリストを市に整備してほしい[大沼] 札幌の文化（施設）を市民が財政的にサポートしていくようなしくみも考える必要がある[臼井]
身近でスポーツを楽しめる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> どのようなクラブづくりが札幌にふさわしいのか実験・検証していくべき これまでの行政「サービス」を積極的にあるものを「支援」という角度からとらえ直すことが必要【全分科会共通】 札幌に本拠地を持つプロスポーツクラブを地域に根ざしたものに育てていく必要がある 	地域住民が主体となった地域スポーツクラブを育成	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民で組織されたスポーツクラブをつくり、自立の見通しを持って支援する（クラブ支援チームをつくる）[大沼] パイロット事業として、市街地にいつでも遊べるような思い切ったスポーツクラブをつくることも考えるべき[大沼] 競技会・記録会、イベント等を実施し日頃の成果を確かめる場をつくる[大沼] 学校の部活を見る先生が地域にいるような、地域連携の部活支援をやってみてはどうか[大沼] トップスポーツと地域のスポーツをつなぐしくみづくりが必要[大沼] 「コンサドレの日」や「ファイターズの日」を設け、練習会、指導者研修会などを実施してはどうか[大沼]
	<ul style="list-style-type: none"> 全国的にスキー離れが進み、冬の観光も減ってきている（札幌はスキー観光の減少が顕著）【経済・雇用分科会共通】 札幌の中心部で、健康・文化・スポーツといったものを融合したイベントで札幌の魅力をアピールすべき【経済・雇用/環境・都市機能分科会共通】【再掲】 子どもたちが外に出る機会が大幅に減ってきている（特に冬季） 冬のスポーツ活動が停滞している 	市民の冬のスポーツ活動を活性化するための取り組みを展開	<ul style="list-style-type: none"> 大通公園やできるだけ公衆の目につくところで、冬のスポーツイベント（市民の歩くスキー大会など）を行う[大沼・中島] ジャンプ場や公園など既存の施設を活用した遊びのイベントを実施（支援）[事務局との意見交換] スキーのリサイクルやスキー情報などのNPOづくりに取り組む[大沼] オリンピック開催都市としての集積（スキージャンプ台等）を活用し大会を誘致する[高田] 冬のイベントを区や小学校単位で行うなど、家族ぐるみで外に出る機会を増やす[阿部] たとえば大通公園に無料のスケートリンクを造るなど、街中に仕掛けをつくってはどうか[臼井・大沼・杉森] 大通公園で日常的な歩くスキーの市民教室を開催[中島]
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが冬の歩くスキーの授業を楽しく感じていないのではないか 自然とのかかわり方を知らない人が多くなっている 	自然と親しむスポーツ活動を通じた環境教育を推進	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな体の動かし方、自然とのかかわり方など、教育の中でスポーツに工夫を考えるべき[臼井] 自然に親しむスポーツ（登山、釣り、ボート、カヌーなど）での環境教育を推進・支援する[大沼] スキーのリサイクルやスキー情報などのNPOづくりに取り組む[大沼]【再掲】

重点の柱	現状・課題	当面の重点的な取り組み	委員の具体的な意見
これからの社会を担う人材づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・住民とその子孫のためのまちの将来像を考えるべき ・アイヌ民族や世界の先住民族には自然との共生、循環の思想があり、こういうことが日本の文化に必要なではないか ・自然との共生、古い価値あるものの保存・継承を通じて郷土愛、自治意識が目覚め、それが経済、快適な都市機能、芸術・文化、ゆたかな人づくりにつながっていく【以上すべて全分科会共通】 	先住民族の歴史・文化を学び、自然と共生する価値観を育む取組を推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の総合的な学習の時間でアイヌ民族の伝統・生活文化を学ぶ〔阿部〕 ・アイヌ文化（デザイン）を市立大学の授業に取り入れる〔高田〕 ・札幌にアイヌ文化条例を制定するべき〔阿部〕 ・アイヌ文化の伝承について、北海道と協力して全道規模の祭典を開催しては〔高田〕 ・市立大学に、将来的に札幌ならではの先住民族学科を設けるための検討を始める〔中島〕 ・日本語地名とアイヌ語地名との並列標記を普及する〔阿部〕
	<ul style="list-style-type: none"> ・人の尊厳（人権）が尊重され、男女の差別がなく平等な社会をつくらなければならない ・大人社会の急速な社会構造の変化に対応し、生き方考える必要がある ・エイズや尊厳死の問題など見えない部分の問題も、学校教育、家庭教育、社会教育という生涯教育の一環で丁寧に考える必要がある ・子どもをめぐる人的環境、大人社会の精神的な風土が荒廃している 	先住民族や社会的弱者の人権を尊重する価値観を育む取組を推進	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育は、一生涯を通じて行われることが重要であり、学校教育だけでなく、家庭、地域、職場など総合的に行うべき（人権集会の開催）〔阿部〕 ・男女共同参画社会や高齢者、障がい者、子どもの人権について、みんなで考え実践する〔高田〕 ・子どもを育てる大人に、倫理観、尊厳死などの問題を含めた生きる哲学を学ぶ環境をつくる〔高田〕 ・家族、家庭のあり方、大切さを考え、みんなで生涯設計の再構築を考える〔高田〕 ・郷土としての札幌や地域をみんなで知ることが、地域の精神的な支えになる「生きる哲学」という言葉をビジョンに盛り込みたい〔飯塚〕
	<ul style="list-style-type: none"> ・週休二日制導入などで、子どもたちが授業で芸術・文化鑑賞、スポーツを行う時間が減っているのではないか ・子どもを美術館・博物館などに連れて行くことが、文化・芸術教育だけでなく社会教育につながり、ゆたかな人間性をはぐくむ 	多様な芸術・文化体験を通して子どもや若者の可能性を伸ばす取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちを美術館・博物館や伝統文化に触れる場所などに連れて行く体験学習や特別講師による授業を実施することが必要 引き受ける企業・NPOを登録制（人材バンクなど）とし助成システムをつくる〔臼井・中島〕 ・授業で子どもたちを美術館・博物館などに送迎するカルチャースクールバスを運行する〔木路〕 ・小さな表現活動（若者の創作・表現活動）に対する助成システムをつくる〔中島〕
	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の知恵と経験をもっと地域のまちづくりに活かすべき【共生・地域づくり分科会共通】 ・公共サービスの拡充を地域（受益者側）が担っていくことを考えなければならない ・ボランティア活動を主体的にとらえられるしくみが必要 ・NPOという専門家集団が活躍できる場をつくらなければならない【共生・地域づくり分科会共通】 ・教育、福祉などにかかわる地域の文化活動、人づくり活動の情報を有効に行きわたらせるしくみの研究が必要【共生・地域づくり分科会共通】 ・市立大学ならではの地域との連携を考えるべき 	様々な人たちが地域のまちづくりに参加・活躍する仕組みづくりを推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に一つずつ、公設民営型で地域の運営委員会というNPO的な運営ができる地域の核になるようなものをつくれぬか（既存の施設を活用して連携するしくみづくり）〔中島〕 ・高齢者の知恵・経験や学習成果を地域のまちづくりに還元・貢献〔阿部・高田〕 ・図書館サービスの拡充を地域のボランティアが担うしくみづくりが必要〔臼井〕 ・自分自身が成長するきっかけとしてボランティアを位置づけるしくみづくりができないか〔飯塚〕 ・「さっぽろNPOファンド」のような場や機会を新しく立ち上げて、発信していけるしくみができないか〔大沼〕 ・地域レベル（区単位）のさまざまな活動組織の情報を横断的に広報するネットワークづくりに向けて、媒体、広報活動や地域との協力体制などを研究・検討する〔飯塚〕 ・市立大学と地域の大学や市の持つ諸施設・機関との連携のしくみづくりが必要〔臼井〕
	様々な主体の協働による教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの教育、学校運営についてPTAや地域がかかわってくることによって、子どもの成長や親の認識・責任が見えてきて、お互いの理解、問題解決につながる ・家庭のきずなを強め、子どもの倫理観を育てる必要がある ・子どもをめぐる問題解決のためにも、生きる力というものを大切にしていかなければならない ・老人を疎外するのではなく、子どもの教育などいろいろな面で活躍してもらおうという視点での見直しが必要である（高齢者の生きがいにもつながる） 	PTA、地域、企業が学校運営に参画し子どもの生きる力を育む教育を推進
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の教育力が相当落ちていると感じる ・家庭での子育て・教育に企業が積極的にかかわるべき（家庭の努力だけでは限界がある）【共生・地域づくり分科会共通】 ・不登校の子供たちは、社会やいろいろな人に触れることが重要 		家庭の子育てや教育を支援する企業や地域の取組を促進	<ul style="list-style-type: none"> ・「ファミリー・フレンドリー企業」の推進が、最も大切な人間回復につながる〔高田〕 ・不登校の子どもたちが社会や人と触れあう機会づくり〔杉森〕 ・廃校を活用してNPOや文化活動の拠点を整備する（フリースクールの子どもたちが触れあう場づくりに活用）〔杉森〕【再掲】 ・地域の中で子どもたちと高齢者が交流できる場を政策的につくる必要がある〔中島〕
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力向上、想像力の訓練、問題解決能力の訓練を中心とする表現教育が大切 ・フリースクールは、勉強だけでなく文化教育面で特色を出し成果を上げているところがある 		表現活動を通して子どもたちの社会性を育てる教育プログラムを実践	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の町内会、民生・児童委員、小中学校、公聴会、区PTA連合会、地域民間団体などが共同参画する形で、小中学生を対象とするドラマワークショップを定例で開催する〔飯塚〕 ・総合学習の場や不登校児が来られる場所としてフリースクールと学校が交流する〔杉森〕